

R6 年度の全国及び埼玉県「学力・学習状況調査」の結果について

新座市立野寺小学校

本年度 4・5 月に実施した全国学力・学習状況調査及び埼玉県学力・学習状況調査の本校児童の結果について分析を行い、学力向上のための取組をまとめました。

【全国学力・学習状況調査（対象・第 6 学年）】

《調査の目的》

文部科学省が、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握し・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることや、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善策に役立てる。

《調査内容》

- 身に付けておかなければ後の学年の学習内容等に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用することや、様々な問題解決のための構想を実践・評価・改善する力等に関わる内容等
- 生活習慣についての質問

【埼玉県学力・学習状況調査（対象：第 4 学年、第 5 学年、第 6 学年）】

《調査の目的》

「学習した内容がしっかりと身に付いているか」という視点とともに、「一人一人の学力がどれだけ伸びているか」という視点を加えて、子供たち一人一人の学びや成長の姿を明らかにするとともに、子供たちの学力の伸びを経年の調査結果から把握する。

《調査内容》

- 国語・算数・生活習慣等についての質問

《調査結果を踏まえた検証》

＜全国学力・学習状況調査＞ 6 学年対象

◇正答率はどの学年においても、国・県・市の平均値と近似値であった。

◇国語では、知識・技能に関する問題項目や、文章の意図を選択肢の中から選ぶ問題の正答率が低く見られた。

◇算数では、図形領域が全国・県よりやや正答率が低く見られ、また、記述形式が平均正答率であったものの、同様の傾向が見られた。

＜埼玉県学力・学習状況調査＞ 4・5・6 学年対象

◇正答率はどの学年においても、県・市の平均値と近似値であった。

具体的な課題としては以下の項目があげられる。

(4 年)

- ・ 漢字の部首を理解する
- ・ 辞書の正しい使い方を理解する
- ・ 登場人物の行動の理由を読み取る
- ・ 日常生活の中で必要となる時刻の求め方を考え、問題を解決できる
- ・ 目盛りのつけ方が異なる 2 つの棒グラフを比較し数量間の関係について考えることができる
- ・ 授業や学習に対して目標や目的をもつことや、計画性に進めること

(5 年)

- ・ 多義語について異なる意味を理解する
- ・ 段落相互の関係に注目して文章の内容を捉える
- ・ 概数の意味や概数にする方法について理解している
- ・ 交換法則、分配法則について理解している
- ・ 具体的な事象を伴って変わる 2 つの量に関連付け、根拠を明確に記述できる
- ・ やや 1 か月の読書量が市・県の平均値より低い。

(6 年)

- ・ 熟語の構成を理解する

- ・語の意味を理解し、適切に使う
- ・文の構成を理解する
- ・情景描写を正しく読み取る
- ・小数の計算のしかたを考え、正しい答えを求めることができる
- ・異分母分数の加法を理解し、数量を求めることができる
- ・五角形の5つの角の大きさの和の求め方を説明する
- ・単位量当たりの大きさについて理解している
- ・円グラフの見方についてと百分率について理解している
- ・与えられた場面を数学的に解釈し、データを基に考察することができる
- ・やや一か月の読書量が市・県の平均値より低い。

《本校の取り組み》

上記の検証やその他結果を踏まえた考察により、本児童の傾向として昨年度と同様に「読むこと・思考における解答が低い（記述形式等）」「計算・漢字・語彙力等、基礎的な知識の定着が不十分」「学習の目的をもって取り組めていない児童が多い」「読書量が少ない」という課題が見られました。そこで、本校では課題に対して以下の取り組みを実施します。

- ・学習の系統を意識し、計算等の基礎的な学習の定着を図る
- ・学校全体として読書の推進を図る
- ・A I 教材等を活用し、児童一人一人の課題に対して個別最適な指導を行う
- ・協働的な学びを推進し、教科ごとの見方・考え方を働かせ主体的に学ぶ児童の育成を図る